

弟子屈の歴史・文学散歩



阿寒摩周国立公園

川湯ビジターセンター



開館時間

4月～10月 8:00～17:00
11月～3月 9:00～16:00

休館日

毎週水曜日(7月第3週～8月31日は無休、
水曜祝日の際は翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)
入館料 無料

088-3465

北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-6

TEL 015-483-4100

FAX 015-483-4111

URL <https://www.kawayu-eco-museum.com/>

てしかが（弟子屈）へようこそ！

アイヌ語のテシ（魚を採る” 築”）カ（上）が命名由来となっている弟子屈町が、文献に初めて登場したのは1859（安政6）年。北海道の名付け親でもある松浦武四郎がこの周辺をアイヌの人々の案内のもと探査し、記録に残しました。その時に詠んだ句は今でも各地に碑として残されています。

時の流れと変わらない美しい風景に思いを馳せながら、ぜひ「歴史・文学散歩」を楽しんでください。

①松浦武四郎の碑・池の湯

1858（安政5）年に屈斜路湖畔を訪れた松浦武四郎が詠んだ、

久寿里の湖
岸のいで湯や あつからん
水乞鳥の 水乞ふて鳴く

といううたが刻まれた碑があります。

池の湯は現在、露天風呂マニアに人気の場所となっています。碑は露天風呂の右奥にあるのですが、草が伸びている時期はわかりにくいかもしれません。



②松浦武四郎の碑・コタン

1858（安政5）年に屈斜路湖畔を訪れた松浦武四郎が詠んだ、

汐ならぬ
久寿里の湖に 舟うけて
身も若がえる こゝちこそすれ

といううたが刻まれた碑があります。

屈斜路コタンアイヌ民族資料館前広場に建っています。



③アイヌ民族資料館

弟子屈・屈斜路地域に暮らしてきた先住民・アイヌの人たちの歴史や文化、生活習慣などを紹介する施設。

祭事具や衣装、道具など約450点を展示しています。現在では貴重な資料である「熊まつり」のスライドがあります。

4月10日～10月31日開館

9:00～17:00

高校生以上 420円

小・中学生 280円

TEL 015-484-2128



④更科源藏文学資料館

更科源藏は1904年、弟子屈村熊牛原野（当時）生まれ。「種薯」を代表作とする詩をはじめ、地方史、博物誌など、北海道の風土に根ざした多くの文学作品を世に送り出しました。代用教員として屈斜路コタンで過ごしたときの内容も多く残っています。

釧路圏摩周観光文化センター内

9:00～17:00 入館無料

火曜休館

TEL 015-482-1616（弟子屈町図書館）



⑤永山在兼の碑

阿寒摩周国立公園の父と言われるのが永山在兼。1889（明治22）年、鹿児島県日置郡生まれ。大正7年釧路土木派出所長として赴任し、阿寒摩周国立公園の前身となる地域の観光道路網の整備を行いました。中でも阿寒横断道路は難工事で、当時は477曲がりともいわれ急カーブの連続でした。

現在の双岳台は「永山峠」と名残り、当時峠にあった碑は奥春別に移されています。日置市と弟子屈町は姉妹都市提携が行われ今も交流が続いています。



⑥種市佐改の功績

1923（大正12）年釧路に生まれる。旧国鉄（現在のJR）を経て、釧路観光連盟事務局長に就任し、「タンチョウ・ハクチョウ・流水の三白観光」と提唱し年間の観光の基礎を作りました。

1989年には釧路圏摩周観光文化センター観光資料室長として着任し、初代弟子屈図書館長を務め、地域に貢献しました。

著書に『阿寒国立公園の三恩人』『阿寒国立公園物語』『雑学・道東の旅と観光』などがあり、『広報てしかが』に連載をして今も受け継がれています。

⑦アトサヌプリ

川湯の始まりはアトサヌプリ（硫黄山）の硫黄採掘事業でした。釧路の漁場持・佐野孫右衛門が現地調査を行ったことをきっかけに硫黄採掘が始まりました。

その後、経営者が安田財閥の創始者である安田善次郎に変わり、事業は大きく展開していきます。当初は馬300頭で硫黄を馬搬していましたが、より多く運搬するため開通したのが安田鉄道。その跡地は現在、青葉トンネルという散策路として利用されています。

